

保 健 体 育 科

保健体育科を通して育成する「自立した学習者」

「豊かなスポーツライフの実現」

する（運動の実践）

- 技能習得、発揮
- 試行錯誤、動きの追究

みる（分析・観察）

- 課題発見、設定
- 運動観察、映像分析

支える（運営・協力）

- 審判、環境管理
- 助言、賞賛

知る（知識・理解）

- 名称、ルール、歴史 等
- 観察の視点、健康との関連

学びの往来・メタ認知

- 映像や静止画を共有した振り返りスライドの作成
- 探究テーマを設定し、計画、実行、改善(AARサイクル)
- 練習方法の選択
- 自己の変容についてのレポート作成
- 助言、賞賛等の他者評価

問い

- 単元を貫く中軸を担う問い
- 見方・考え方を働かせる問い

特性的な見方・考え方

- 固有の楽しさや面白さ
- 魅力 ・ルール ・技能
- 関連して高まる体力

価値的な見方・考え方

- 公正 ・協力 ・責任
- 参画 ・共生
- 健康、安全 等

運動やスポーツを、その価値や特性に着目しながら、
自己の適性に合わせて「する・みる・支える・知る」の
多様な関わり方を追究する姿

学びに向かう力、人間性等

生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度（体）

健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度（保）

知識及び技能

運動の特性に応じた行い方や
一般原則などの知識（体）

各種の運動が有する特性や
魅力に応じた基本的な技能（体）

個人生活における健康、安全
についての科学的な知識や技能（保）

思考力・判断力・表現力等

自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫
できる思考力・判断力・表現力（体）

健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、
課題解決に適切な意思決定をする力（保）

実践事例

1 単元名

球技/バスケットボール（第1学年）

2 本校の研究と本実践の関わり

(1) 単元設定の趣旨

球技は、ゴール型、ネット型、ベースボール型などに分類され、個人やチームの能力に応じた作戦を立てながら、集団対集団あるいは個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを見いだせる運動である。その中でもバスケットボールは、パスやドリブルを用いてボールを前進させ、相手の守備をかわしてシュートを決めるといふ、集団対集団で競い合う種目である。また、チームで協力して行う練習や試合を通して、集団的スポーツならではの仲間との交流を体験し、楽しさや喜びを味わうことができる運動でもある。一方で、思うようにシュートやドリブルができなかったり、人との接触、あるいは一瞬で攻守が入れ替わるスピーディーな展開が苦手だったりする生徒にとっては、「チームの迷惑になるのではないかな」という不安な気持ちから、積極的に活動することが難しい一面もある。

そこで本単元では、ゲームコートはオールコートではなく、ハーフコート（3on3）を採用する。オールコートでの5対5のゲームには、攻防の展開が速く、実際の試合に近い臨場感を味わえるという魅力がある一方で、ボールに関わる機会が限られ、特に技能に不安のある生徒が受け身になりやすいという課題もある。また、コート全体を使うことで、自他の動きを把握することが難しくなることもある。これに対し、3on3では、生徒のボールへの関与が増えるとともに、プレイの意図や役割が明確になりやすい。攻防の局面がコンパクトな空間で展開されるため、自分や仲間、相手の動きが見えやすく、「なぜその動きを選んだのか」「どうすればチームに貢献できるか」といった思考を育む場として有効である。これらの理由から、本単元では、バスケットボール特有の戦術について理解を深めるためにハーフコートでの3on3のゲームを行う。

単元の初期では、バスケットボールに必要な技能を習

得するための基礎練習を通して、パス・シュート・ドリブルといった技能を身に付け、バスケットボールのゲームに臨む期待感を高めたい。その後、自己の能力やチームの課題を把握し、それを解決するための練習メニューを考える活動を通して、生徒一人一人が自ら学びを調整しながら、バスケットボールの特性や魅力を理解し、主体的に取り組む姿を育てていきたい。このような学びを促すことを目的として、本単元を設定した。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、体育の授業に意欲的に取り組む姿が多く見られ、与えられた課題に対して解決しようとする様子が見られる。ほとんどの生徒が小学校で、ルールを工夫したバスケットボールの学習に取り組んできた経験がある。今年度の事前アンケートでは、「パスがつながると楽しい」「シュートを打って決まると嬉しい」「チームで作戦を考えたい」など、半数以上の生徒がバスケットボールの学習に好意的な回答を示している。一方で、「技能の高い人が攻め続ける」「ボールを持って相手を取られそうで怖い」「どこに動けばよいか分からない」といった理由から、不安を感じている生徒も少なくない。

そこで本単元では、生徒一人一人が「自分がバスケットボールを楽しむためには何が必要か」というテーマで探究活動を行う。これにより、不安を感じている生徒も、自ら楽しめる方法を見出しながら学習に主体的に取り組むことができるようにしたい。

また、中学1年生という発達段階においては、新しい集団に適応しながら人間関係を構築している過程にあり、友人との距離感や関わり方に不安を抱く生徒もいる。特にチームスポーツの中では、協力や役割分担、相互理解といった関係性の構築が必要となる場面も多く、個々の関係性の未成熟さがゲームへの関わりに影響することもある。こうした課題を見据え、本単元では、仲間との対話や協働の中でプレイの意図を共有したり、個人やチームの課題をともに乗り越えたりする経験を通して、互いを認め合いながら人間関係を育むことも目指したい。

これらの学習を通して、生徒が個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団で勝敗を競うことの楽し

さや喜びを味わうとともに、自己の適性に応じた多様な関わり方を見付け出す姿を期待したい。

(3) 指導の構え

① 個と協働が往来する単元構成

本単元では、「自分がバスケットボールを楽しむためには何が必要か」という個人の探究テーマを軸に学習を進めていく。単元の初期段階では、「シュートを決めたい」「パスがつながると楽しい」といった個々の技能面への関心や達成感が学びの出発点となる生徒が多く見られるだろう。

しかし、ゲームを重ねていく中で、バスケットボール特有の攻防の展開やチームの戦術的な動きに気付き始めると、「自分の力をどうチームに生かすか」「どのように連携すればよりよいプレイにつながるか」といった、より広い視点からの課題意識へと意識が変容していくことが期待される。生徒の技能には個人差があるが、それぞれが「やってみたい」「できた」という小さな達成を積み重ねることで、運動への自信（運動有能感）を高めながら学習を深めていく。

そうした積み重ねが、やがて「チームのために自分ができることは何か」というチーム課題の解決への参画につながっていくと考える。本単元を通して、個の探究がチームの成長へと繋がっていくことを実感させたい。

② 俯瞰映像を用いたメタ認知的活動

俯瞰映像を活用することの有効性はこれまでの研究からも明らかになっており、先行研究では、「俯瞰的な視点で自らのプレイを捉えることで、適切な状況判断や行動の改善につながる」ことや、「個人の空間の使い方の理解」「周囲を意識したプレイの必要性」「攻守の切り替えに対する意識の向上」といった効果が示されている。特に、チームの攻め方、守り方の特徴と自らの動きを照らし合わせながら振り返ることで、より具体的で実践的な課題設定が可能になるとされている。

そこで本単元では、3回程度の振り返り・分析の時間を位置づけ、生徒が自分のプレイの中で「よかった点」や「改善したい点」の映像をトリミングして蓄積し、スライドにまとめていく活動を行う。生徒の主観的な振り返りだけでなく、ゲームの映像を見ながら振り返るメ

タ認知活動を通して、生徒は自分のプレイを客観的に見つけ、個人技能の向上だけでなく、スペースの活用や状況に応じた判断力の育成にもつながることが期待できる。

また、作成したスライドは個人で保持するのではなく、チームで共有していくことで、仲間がどのような課題意識をもち、どんなプレイを目指しているのかを互いに把握しやすくなるだろう。

これらの活動により、個人の学びが自然とチーム全体の成長や一体感へとつながっていくような、学習環境の構築を図りたい。

③ 気付きを促すパス・シュートの記録と分析

本単元では、プレイ中の自分の動きを客観的に把握し、具体的な課題意識をもって次の活動につなげることをねらいとしている。特に、パスやシュートといったプレイの基本行動について記録し、自分がどの程度関わっているかを数値として分析することが、学びの動機付けとなり、改善への手がかりとなる。以下の手立てを用いて、パスやシュートの回数を記録・分析していく。

③-1 チェック表を用いた観察記録

授業中のゲームの場面において、交代で見取りを行う生徒に簡易的な記録用紙を配付し、チームメンバーそれぞれのパス回数やシュート回数を記録させる。観察者は、プレイ中の動きを客観的に捉える役割を担いながら、仲間のよさや課題にも気付くことができるだろう。この活動を通じて、生徒は「どのような場面でパスやシュートが多くなるのか」「プレイが偏っていないか」などの視点をもってプレイを見る力を養うことができると考える

【気付きを促すパス・シュートの記録用紙】

| | | 成功…○を付ける、失敗…×を付ける | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|----|-------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|--|
| 前半 パス | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | |
| | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | |
| | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | |
| | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 | |
| 前半 シュート | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | |
| | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | |
| | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | |
| | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 | |
| 前半 得点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後半 パス | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | |
| | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | |
| | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | |
| | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 | |
| 後半 シュート | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | |
| | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | |
| | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | |
| | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 | |
| 後半 得点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 得点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

③ - 2 俯瞰映像を活用した後追い分析

授業内で撮影した俯瞰映像を活用し、生徒自身がゲーム中の自分のプレイを確認する時間を設ける。パスやシュートの場면을映像から探し出してトリミングし、スライドにまとめることで、回数やプレイの質に関する気付きを記録に残していく。生徒は「どのような場面で自分がボールに関わったか」「どのような意図でプレイしていたか」を言語化しやすくなり、自分のプレイスタイルやチームでの役割について具体的に考えることができるようになると考える。

これらの活動を通して、生徒は自分のプレイを数値的に客観視することが可能となり、主体的に課題を発見し、改善に向けた意識を高めていくことができると考える。また、データや映像をチームで共有することで、仲間と課題を認識し合いながら、互いに高め合おうとする雰囲気育てていきたい。

【俯瞰映像を用いた分析スライド（動画＋解説）】

| ＜ナイスプレイ映像集②＞ | | | | |
|---|--|--|--|---|
| トリミング動画 | トリミング動画 | トリミング動画 | トリミング動画 | トリミング動画 |
|  |  |  |  |  |
| <p>＜解説＞ このトリミング動画は、相手の大迫さんからパスをカットした場面です。このパスをカットしたことによって北くんがパスが渡り、もう一回場に入ったので僕がシュートを打つことができたので自分でのナイスプレイだと思いました。</p> | <p>＜解説＞ このプレイは亀井さんからパスをもらってディフェンスがすきを見せた瞬間ドリブルをしてシュートにつなげて入りました。また、僕がドリブルしていくときに、梅野くんがそのルートからでてくれたため入りました。</p> | <p>＜解説＞ このプレイは、谷本さんのパスコースが効いてすべて防がれていたのですが、僕がそのボールを買いに行ったあと、亀井さんにパスを渡したプレーがいいと思いました。</p> | <p>＜解説＞ このプレイは、私が石黒くんの防衛を阻止して谷本さんにボールをパスするプレイです。このPASのお陰で、ボールがゴールの近くまで行き、あとはシュート率を上げることができたとおもいます。何回もシュートしてるけど一回も入らなかったから、どんな状況でも入れる、シュート練習がしたいです。</p> | <p>＜解説＞ 高取くんが壁に囲まれていて、ドリブルできない状態のときに、パスできそうなところに移動して、ボールをもらい、ドリブルをして、ゴールの近くに移動した場面がナイスプレイだと思いました。</p> |

3 研究主題との関連

本単元では、ゲーム中の自他の動きを振り返り、よりよい攻防のために課題を見出し、仲間と協働しながら工夫・改善を重ねながら、自らの学び方を調節できる生徒を「自立した学習者」と捉え、その育成を目指す。また、単に技能を習得するだけでなく、ゲームの中で自分や仲間の動きがどのような意味や役割を果たしているかを考え、それらの動きが得点や守備にどうつながっているかを振り返りながら、より効果的なプレイへと改善していく力を育むことを重視する。

しかし、現状では、生徒は基本的なパスやシュートなどの技能が未熟であるだけでなく、攻防の流れを理解し、

自他の動きを多面的に振り返る視点も十分に育っていないという課題が見られる。

そこで本単元では、ゲーム映像、学習スライド、記録用紙などの教材を活用し、動きや判断を客観的に振り返る学習活動を取り入れる。その中で「どのような動きや判断が、よりよい攻防につながるのか」を生徒自身が問い続ける学びを展開する。この過程では、仲間との対話を通じて考えを深めたり、意図をもってプレイを改善したりする「見直す → 考える → 試す」という学びのサイクルを重視し、生徒が自らの学びを調整していけるように支援する。

こうした学びを積み重ねることで、生徒はバスケットボールの特性を生かしながら「自立した学習者」像に迫ることができると思う。

本単元では、「どのような動きや判断が、よりよい攻防につながるのか」という問いを追究する過程を通して、ゲーム中の自他の動きをメタ認知し、自ら学びを調整し続ける力の育成を目指す。こうした学習過程では、教師や仲間との対話、ゲーム映像や記録カードによる振り返りを通じて、「個⇔協働」の往來を繰り返しながら、プレイに対する見方や考え方を深めていく。例えば、自分のプレイを映像で振り返ることで「なぜこの動きを選んだのか」「結果としてどのような効果があったのか」と自問自答しながら、自分の判断を言語化したり、客観的に見たりする力を育む。さらに、仲間と意図や課題を共有しながらプレイを改善していく活動によって、自らの考えを再構成する契機ともなる。

また、ゲームを繰り返し実践する中で「過去の自分⇔今の自分」の変化を実感し、自らの成長を捉える視点を獲得。こうしたメタ認知的な振り返りを積み重ねることで、生徒は「見直す→考える→試す」という学びのサイクルを主体的に回し続けるようになり、目的に応じて自他の動きを調整できる「自立した学習者」へと近づいていくと考える。

「自立した学習者」の姿を捉えるための評価規準

| 関わり方 | 関わり方についての解説・評価規準 |
|--|---|
| <p>する 【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> バスケットボールの基本的な技能（パス・ドリブル・シュート等）を活用し、状況に応じたプレイができていますか。 | <p>[A] 状況に応じて多様なプレイ（パスの種類を使い分け、ドリブルでのスペース活用、適切なタイミングでのシュート等）を選択し、チームに貢献している。</p> <p>[B] 基本的な技能（パス・ドリブル・シュート等）を安定して実行できている。</p> <p>[C] 基本的な技能の実行に課題があり、安定したプレイが難しい。</p> |
| <p>みる 【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームの流れを理解し、自分や仲間、相手の動きを捉えたうえで、適切な判断や工夫ができていますか。 | <p>[A] 相手や味方の動きを見て、効果的なポジション取りやサポート、判断をしている。</p> <p>[B] ある程度状況に応じた動きができるが、判断が遅れる場面もある。</p> <p>[C] 状況把握が難しく、判断や動きに一貫性がない。</p> |
| <p>支える 【主体的な態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力しながら課題に取り組み、チームの一員としての意識をもって行動できているか。 | <p>[A] 仲間を尊重し、声かけや励まし、パスやカバー等を通して積極的にチームに関わっている。</p> <p>[B] 基本的な協力姿勢があり、チームプレイに取り組んでいる。</p> <p>[C] 連携や協力が不十分で、個人プレイに偏っている。</p> |
| <p>知る 【知・技、思判表、態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> バスケットボールの特性や動きの意味を理解し、映像や記録をもとに自他の動きを振り返り、プレイを改善しようとしているか。 | <p>[A] 映像や記録を活用して自己のプレイを客観的に分析し、改善に取り組んでいる。</p> <p>[B] 振り返りを通して自身の成長や課題に気づき、次に生かそうとしている。</p> <p>[C] 振り返りが十分でなく、自分の動きを見直す姿が少ない。</p> |

<「する・みる・支える・知る」に対応したルーブリック評価>

単元構造図 全体計画 (全14時間計画)

| 単元の目標 | 単元内容 | | | | | | | | | | | | | | 単元の評価規準 | | |
|---|---|--------------------------|------------|------------|--------------------------|-----------------|-----------------|--------------------------|-----------------|-----------------|--------------------------|-----------------|--------------------------|-----------------|---|-----------------|------------|
| | 時 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12(本時) | 13 | | 14 | |
| <p>知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等</p> | <p>勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。 (ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。)</p> <p>攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとしている。</p> | | | | | | | | | | | | | | <p><自立した学習者の姿> 本単元で目指す「自立した学習者」とは、自身がバスケットボールをより楽しむことを目的に、探究的な学びを通して成長しようとする生徒の姿である。具体的には、「する・見る・支える・知る」という多様な関わり方を意識しながら技能を習得し、ゲーム中の自他の動きを振り返って課題を見出すことができる。また、その課題に対して仲間と協働しながら、工夫や改善を重ねて自らの学び方を調整できる姿を「自立した学習者」と捉える。</p> | | |
| <p>課題学習の流れ</p> | 単元の見直し | 現状把握と課題設定 | 探究テーマ設定 | 個人探究活動 | 課題見直し | 個人探究→チーム | 課題見直し | 個人探究→チーム | 課題見直し | 個人探究→チーム | 課題見直し | 個人探究→チーム | 課題見直し | 個人探究→チーム | 課題見直し | 個人探究→チーム | レポート作成 |
| <p>学習内容</p> | <p>試しのゲーム・基礎技能</p> <p>分析の仕方</p> <p>個に応じたスキルアップ</p> <p>振り返り</p> <p>個の特性を生かしたチーム戦術</p> <p>振り返り</p> <p>目的をもった攻め方・守り方</p> <p>振り返り</p> | | | | | | | | | | | | | | <p>授業づくりのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームの映像や記録カードを活用し、プレイを客観的に振り返る時間を設ける。自他の動きを見直すことで、自分のプレイを的確に捉え直し、改善点や成功の要因に気付けるようにする。 仲間との対話を通して、自分では気付かなかった視点や意図を知る機会をつくる。他者とのやりとりの中で学びを深め、思考や判断の幅を広げる。 チームの目標やプレイ方針を共有することで、個人の動きがチーム全体にどのように影響しているかを実感させ、個とチームの関係性を理解させる。 「見直す→考える→試す」のサイクルを繰り返し、プレイの質を高めていく。生徒自身が、自分の課題や強みに気づき、それを次のプレイに生かそうとする姿勢を育てる。 振り返り活動では、「過去の自分」と「今の自分」を比較し、成長や変化を実感できるようにする。これにより、生徒のメタ認知を促し、学びを自己調整できる力を養う。 | | |
| <p>学習の流れ</p> | ① 単元計画の確認 | ② スキルアップタイム・ドリブル・パス・シュート | ③ 学習内容の確認 | ④ 探究テーマの設定 | ⑤ スキルアップタイム・ドリブル・パス・シュート | ⑥ 探究活動の振り返り・再設定 | ⑦ 探究活動の振り返り・再設定 | ⑧ スキルアップタイム・ドリブル・パス・シュート | ⑨ 探究活動の振り返り・再設定 | ⑩ 探究活動の振り返り・再設定 | ⑪ スキルアップタイム・ドリブル・パス・シュート | ⑫ 探究活動の振り返り・再設定 | ⑬ スキルアップタイム・ドリブル・パス・シュート | ⑭ 探究活動の振り返り・再設定 | ⑮ スキルアップタイム・ドリブル・パス・シュート | ⑯ 探究活動の振り返り・再設定 | ⑰ レポートの書き方 |
| <p>基礎技能の確認</p> | ① 基礎練習 | ② チーム練習 | ③ ピボット | ④ ジャブステップ | ⑤ チーム課題の確認 | ⑥ 探究活動の計画 | ⑦ ゲーム | ⑧ ゲーム | ⑨ ゲーム | ⑩ ゲーム | ⑪ ゲーム | ⑫ ゲーム | ⑬ ゲーム | ⑭ ゲーム | ⑮ ゲーム | ⑯ ゲーム | ⑰ 発表会 |
| <p>ルールの確認</p> | ① チーム課題の確認 | ② 探究活動の計画 | ③ チーム課題の確認 | ④ ゲーム | ⑤ ゲーム | ⑥ ゲーム | ⑦ ゲーム | ⑧ ゲーム | ⑨ ゲーム | ⑩ ゲーム | ⑪ ゲーム | ⑫ ゲーム | ⑬ ゲーム | ⑭ ゲーム | ⑮ ゲーム | ⑯ ゲーム | ⑰ 発表会 |
| <p>試しのゲーム</p> | ① 試しのゲーム | ② 試合映像撮影、分析 | ③ シートの確認 | ④ 振り返り・片付け | ⑤ 振り返り・片付け | ⑥ 振り返り・片付け | ⑦ 振り返り・片付け | ⑧ 振り返り・片付け | ⑨ 振り返り・片付け | ⑩ 振り返り・片付け | ⑪ 振り返り・片付け | ⑫ 振り返り・片付け | ⑬ 振り返り・片付け | ⑭ 振り返り・片付け | ⑮ 振り返り・片付け | ⑯ 振り返り・片付け | ⑰ 発表会 |
| <p>評価機会</p> | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ | ⑯ | ⑰ |
| <p>単元の評価規準</p> | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ | ⑯ | ⑰ |

4 実践

視点1 「学びの往来」を実現する単元構成

視点2 「自立した学習者」育成に必要な資質・能力を身に付けるための自己調整学習

① 振り返りスライドを通して、過去の自分と今の自分の変容を実感した生徒A

本単元では、生徒自身が自分や仲間の動きを振り返り、次の学習で何を意識して取り組むかを捉えられるようにするため、ゲーム映像や記録用紙を基にした、学習を調整するための手がかりとなる振り返りスライドを作成しながら単元を進めた。

生徒Aは、単元当初からゲームに意欲的に参加し、ボールに関わろうとする姿は見られたものの、自身の動きや判断を振り返る際には、「うまくできた」「失敗した」といった結果に着目した振り返りにとどまっていた。そのため、ゲームの中で自分や仲間の動きがどのような意味や役割を果たしているのかを捉え、次の学習に生かす視点は十分とは言えなかった。しかし、単元半ばに、ゲーム映像や記録用紙を基に自分の動きや判断を振り返る活動を行ったことが、生徒Aの学びの転機となった。

【Aさん：4～6時間目の振り返り】

僕は、単元のはじめは、自分一人で攻めたりシュートを打ったりすることが多く、周りの動きをあまり見ることができていなかったと思います。とにかく点を取りたいという気持ちが強く、パスを出した後の動きや、味方がどこにいるかまで考えられていませんでした。

教師から「ボールを持っていないときに、次の攻めにつながる動きができていたか」「その場面で、味方どのようにあなたに動いてほしかったか」といった問いについて考えることを通して、生徒Aは結果だけでなく、自身の動きがチームの攻撃に与える影響に目を向けて振り返るようになった。

生徒Aは、映像を見返す中で、「ア：ボールを持っていないときの動きが少なく、攻撃の選択肢を広げられていない場面が多い」「イ：味方の動きに応じた立ち位置やサポートが不十分であった」といったように、自身の判断や動きの特徴を具体的に捉えるようになった。

【ア：ボールを持っていないときの動きが少ない場面】



【イ：味方の動きに応じた立ち位置やサポートが不十分】



【Aさん：7～9時間目の振り返り】

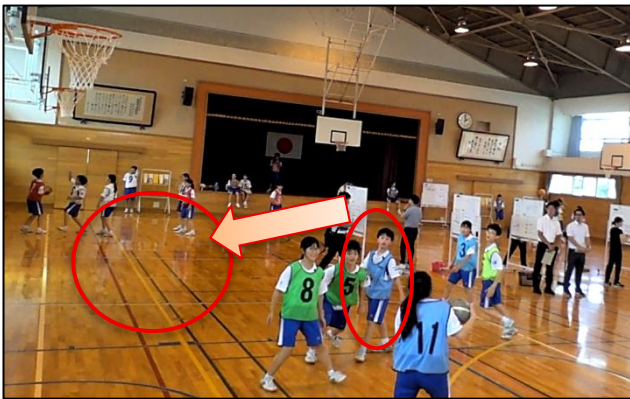
ゲームの動画を見たり、振り返りシートを書いたりする中で、ボールを出したあとに止まってしまっている自分に気付きました。周りをよく見ると、空いている場所があるのに、そこに動いていない場面が多いことが分かりました。パスを出して終わりではなく、そのあとに動くことで、仲間が攻めやすくなるのではないかなと思うようになりました。

こうした振り返りを通して、生徒Aは「ウ：パスを出した後の動きを工夫する」「エ：味方のサポートができる位置に動く」という課題を設定するなど、チームで協力した攻め方について自分の考えを変容させた。これらは、一方的に与えた課題ではなく、振り返りスライドと教師の「問い」を手がかりに生徒自身が見いだしたものである。その後のゲームでは、味方がボールを保持した際に、パスを出して終わるのではなく、次の展開に関わるために、再び受け手となる位置へ動いたり、空いたスペースへ移動したりするなど、味方の選択肢を広げようとする動きが見られるようになった。

【ウ：パスを出した後の動きに課題】



【エ：味方のサポートができる位置に動く】



【空いたスペースへ移動し、味方の選択肢を広げようとする動き】



【Aさん：10～12時間目の振り返り】

周りを見て動くことを意識すると、前より落ち着いて動けるようになりました。チームで話し合いながら動きを工夫すると、シュートが決まったり、攻めがうまくつながったりすることが増えました。これからも、チームの中で自分が何をするとよいか考えながら取り組んでいきたいです。

「前より落ち着いて動けるようになった」という生徒Aの記述は、ボールを持っていない場面において、次の展開を見通しながら動けるようになったことを指している。単元初期には、味方がボールを保持した際、その場で立ち止まったり、ボールを要求することに意識が向い

たりする場面が多く見られた。しかし単元後半には、味方や相手の位置を確認した上で、パスを受けやすい位置へ移動したり、次の攻撃につながる立ち位置を選択したりする姿が見られるようになった。

また、「チームで話し合いながら動きを工夫した」という点については、ゲーム後の振り返りや練習中の対話の中で、「ボールを出した後はどのように関わるとよいか」「誰がスペースを使うと攻めやすくなるか」といった点について意見を出し合い、パス後に止まらず、次の攻撃に関わり続けることがチーム内で共有されていたことが背景にある。こうした話し合いを踏まえたゲームでは、生徒A自身も、味方の動きに応じて立ち位置を変えたり、無理にボールを要求するのではなく、攻撃の流れを支えるために、パスコースを確保する位置に動いたり、味方がプレイしやすい間合いを保ったりするなどの動きを選択したりするようになっていった。

このように生徒Aは、ゲーム映像や記録、振り返り等についてスライドにまとめる活動を通して、自身の動きや判断を振り返り、ボールを持っていない場面での関わり方や立ち位置を問い直しながら課題を解決に向かうことができた。その上で、仲間との対話を通して得た気持ちを、次回のゲームやチーム練習で試すなど、自らの取り組み方に目を向け、学習を進めていた。具体的には、ボールを持っていない場面において、味方の動きに応じてパスを受けやすい位置に動いたり、攻撃の流れを支える立ち位置を選択したりする姿である。

こうした実践を重ねる中で、生徒Aは自らの学びを継続的に調整するようになった。これは、単に技能が向上したということにとどまらず、「どのような動きや判断が、よりよい攻防につながるのか」を具体的な場面に即して問い続けながら学習を進める、「自立した学習者」としての姿が行動の変化として表れた一事例であると考えられる。

② 「個と協働」を往還しながら、自身の役割に気付き、探究課題を変容させた生徒B

生徒Bは、単元当初、得点場面で自分に関わろうとする意識が強く、ドリブルで突破してシュートを狙うなど、

攻撃の中心として振る舞う姿が多く見られた。自分が得点することがチームにとって重要だという思いから、積極的にしかける場面が目立った一方で、周囲の動きや状況を十分に捉えられず、味方との連動が生まれなまま攻撃が終わってしまうことも少なくなかった。そのため、振り返りでは、自身の成長を「直接ゴールにつながるプレイができたか」のみで判断し、チームの中で果たしている役割や、仲間との関わり方を振り返る視点は十分とは言えなかった。

【Bさん：個人での得点を重視した単元初期の振り返り】



<ナイスプレイ
動画の解説>
自分一人でゴール下まで行きレイアップシュートを打って成功したところがナイスプレイだと思います。

そこで、ゲーム後に振り返る際、教師から「その動きは、チームの攻めにどのようにつながっていたか」「自分がボールを持っていないとき、どこで関わられたらうか」と問い、生徒が自他の動きを関連付けて捉える場面を設定した。生徒Bは映像や記録を見返す中で、自分がドリブルで攻め切った場面や、守備で一人に寄り過ぎた場面が、結果的に仲間の判断や動きを制限していたことに気が付き始めた。

【Bさん：仲間の動きに気付き課題を見直した振り返り】



<改善したいプレイ
動画の解説>
このプレーは一回ドリブルしてシュートまで狙いに行きたかったけど、できなくて困っていたとき、□くんが前に上がってきてくれたのにそれに気付かずパスを出せなかったところを改善していきたいと思った。

また、チームでの話合いや振り返りの際に、「動いてくれるとパスが出しやすい」「空いているところに動いてくれると助かる」といった具体的な意見を受け、自分の動きが仲間の判断や攻撃の選択肢に影響していることに気付いた。

こうしたやり取りを通して、生徒Bは、自分の行動が

得点場面だけでなく、チーム全体の攻撃の流れを支えていることを実感するようになった。そして、「自分が得点すること」だけでなく、「仲間が得点しやすくなる状況をつくること」も、チームの中で果たす重要な役割であると捉え直していった。

【Bさん：周囲を見た判断が表れた単元後半の振り返り】



<ナイスプレイ
動画の解説>
このプレイはドリブルしてシュートしようとしたが、そこまで行けなかったため、空いているところにいた□くんが前に上がってきてくれたところにパスしてシュートを打ったところがナイスプレイだと思った。チームプレイができた瞬間でした。

さらに守備面においても、チームでの振り返りを通して、「一人の相手に複数についてしまい、他の相手を自由にしてしまっている」というチーム全体の課題に気付いた。そこで、「一人に一人がつく」という共通の約束を確認し、守る相手を意識して立ち位置を調整することを心がけるようになった。その結果、試合中には、自分の近くにいる相手だけでなく、周囲の守備状況にも目を向けながら、空いた空間をうめたり、マークをついていない生徒と声をかけたりするなど、チーム全体の守備につながる行動を取る姿が見られるようになった。

このように生徒Bは、教師の問いによる視点の転換と、仲間との対話を通じた気付きの積み重ねによって、自己の探究課題を「個人としてどう攻めるか」から、「チームの中で自分はどのように関わるか」へと変容させていった。結果として、生徒Bは自らの得点や成功だけに目を向けるのではなく、仲間の動きやチーム全体の状況を踏まえながら、自分の役割を調整しようとする姿を見せるようになった。自身の行動をチームの視点で捉え直し、個としての挑戦と協働による調整を往来しながら学びを深めていく姿は、「自立した学習者」としての成長が具体的に表れた姿であると考えられる。

③ 練習を通して「全員が楽しめるバスケットボール」を追究したチームの変容

チームCは、単元当初、「みんなで楽しみたい」「試合に勝ちたい」という思いを共有していたものの、練習

ではその思いが具体的な行動や工夫として表れにくく、個々が思い思いに動く場面が多く見られた。振り返りでも「うまくいった」「楽しかった」といった感想的な記述が中心で、チームとして何を目指し、どのように練習すればよいのかを捉えるまでには至っていなかった。

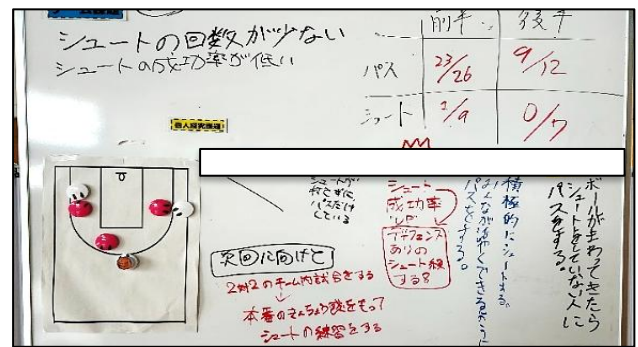
しかし、単元計画の4時間目に行った「あなたがバスケットボールを楽しむためには？」について話し合う中で、生徒たちは、一部の生徒だけが活躍する状態ではなく、「全員が関わり、つながりを感じられること」こそが楽しさにつながると気付き始めた。話し合いの場では、「パスが回ると楽しい」「声をかけ合うと安心して動ける」といった意見が出され、楽しさの要因がチーム全体の動きや関わり方にあることが徐々に共有されていった。

【探究テーマに対する個人の考え・チームで大切にしたい価値の共有】

| ＜探究テーマ＞ あなたがバスケットボールを楽しむためには？ | | | | |
|--|---|--|--|---|
| 私はみんなでパスを繋ぎシュートまでもっていき、試合に勝つと楽しむことができる。 | 僕は全員で協力してシュートを決めて試合に勝てたら楽しむことができる。 | 私は謙虚さをなくして、自らボールをもらい、全員が活躍できて喜ぶ合ったら楽しむことができる。 | 私は味方のボールが受け取れて、自分のパスがしっかりと繋がるようになれば楽しむことができると思います。 | 私は協力してパスを繋ぎ、全員が活躍できたと楽しむことができると思う。また、みんなで喜び合ったり、互いの気持ちを考えて声を掛け合うことができるとうれしく思っています。 |
| そのために探究活動の時間には、パスの練習、シュートの練習を集中して取り組んでやる。ボールに慣れたい。 | そのために探究活動の時間には、パスの連携の練習やシュートの練習をして、フリーで打ったら絶対決められるようにしたいです。 | そのために探究活動の時間には、自信をもって取り組めるようにパスやシュートを少しでも正確になるように練習して、チームで協力して、さらに絆を深めていきたいです。 | そのために探究活動の時間には、パスの練習や上手な打ち方を調べると良いと思います。 | そのために探究活動の時間には、パスを繋ぐためにどうすればよいのか、今までの試合で良かったところ、改善するべきところなどをよく話し合ったり、パスの練習、パスからシュートにつながる練習などをして少しでも点を取れるようにしたりしてさらにみんなが楽しめるようにしていきたいです。 |

こうした気付きを受けて、生徒たちは「全員が楽しめる状態をつくるためには、どのような練習が必要か」という問いをもとに、練習内容や取り組み方を自分たちで工夫するようになった。「一人一回はシュートに関わる」「無理に攻めすぎず、横や後ろにサポートし、つながりを大切にする」「得点しやすいゴール下の空間に動く」といった判断基準や約束について共有し、ゲームに生かすための練習を考え始めるきっかけとなった。

【練習課題を数値と図で共有するチームの話し合い】



単元後半になると、練習場面では、「ボールを出した後はどこに動くよいか」「どの位置に動けばパスがつながりやすいか」といった戦術面や、「今の動きよかった」「もう一度やってみよう」といった技術面の改善や挑戦を後押しする前向きな声をかけ合いながら動きを修正したり、うまくいかなかった場面を止めて確認したりする姿が見られるようになった。単元末の振り返りでは、多くの生徒が、自身の特徴や不安に触れつつも、それをチームでの練習や仲間との関わりを通して乗り越えてきた過程を具体的に記述していた。そこには、個人の成長をチームの成長と結び付け、練習を手がかりに学びを調整し続ける姿が見られ、チームCが「全員が楽しめるバスケットボール」を追究する自立した学習者集団へと変容していった様子が表れていたと考える。

【チームでの練習を通して役割意識と自信を高めた生徒】

私はバスケットボールが苦手だったため、ボールを持っていないときの動き方を意識するようにした。練習を重ねる中で、仲間の位置や状況を見て動くことで、チームの役に立てる場面が増えた。チームの練習や仲間との関わりを通して、自分にもできることがあると感じ、自信をもってプレイできるようになった。

【練習内容をチームで考え、支え合いながら苦手意識を乗り越えた生徒】

私はシュートやドリブルが苦手で、最初うまくできなかった。しかし、チームのみんなが声をかけて支えてくれたことで、練習に前向きに取り組むことができた。練習メニューをチームで考えながら続けるうちに少しずつできるようになり、試合で勝つときは大きな達成感を感じた。チームで取り組むことで、自分も成長できたと感じている。

課題

① 自立した学びがチーム全体に十分には広がり切らなかった点

本単元では練習の際、自分たちで内容を決めたり、動きの改善点を話し合ったりしながら単元を進めた。その際、発言や判断が特定の生徒に偏り、他の生徒は提示された意見を受け入れる立場にとどまる場面も少なくなかった。例えば、練習の方法を考える場面では、一部の生徒が意見を出し続ける一方で、自分の考えを言語化できないまま活動に入る生徒の姿も見られた。こうした課題に対して、教師は話合いの時間を確保し、生徒同士の対話を促してきた。しかし、話合いの場面において、「意見をまとめる役」「動きのよかった点や改善点を見付ける役」などの役割を明確に設定することや、「今の動きはどのような点がよかったのか」「どこを改善すると次のプレイにつながるのか」といった具体的な視点を示して発言を促すことに関しては十分でなかった。そのため、発言が一部の生徒に偏ったり、感想的なやり取りにとどまったりする場面も見られた。結果として、自立した学習者としての姿が一部の生徒に顕著に表れる一方で、その在り方をチーム全体に広げるための支援については課題が残された。

② 練習の意図や質をさらに高めるための支援の在り方

本単元では、「どのような練習が必要か」を生徒自身に委ねることを重視し、練習内容や取り組み方を話し合いながら決定する場を設定した。その結果、単元後半には、練習中に声をかけ合い、動きを止めて確認するなど、練習を通して課題を修正しようとする姿が見られるようになった。

一方で、練習のねらいや意図が十分に共有されないまま活動が進み、「とりあえず同じ練習を繰り返す」「うまくいかない理由が曖昧なまま終わる」といった場面も見られた。教師は練習を生徒に委ねる姿勢を大切にしながら、練習を考える際の観点や、練習の質を高めるための問いかけを十分に示せなかった点は課題である。

生徒の自立を尊重しつつも、練習の意図や根拠を明確にするための足場をどのように設定するのかを、今後検

討していきたい。

③ 学習評価を次の行動へとより確実につなげる工夫

本単元では、振り返りカードや話合いを通して、自身の課題や成長を言語化する場を継続的に設けた。その結果、多くの生徒が「周りを見ること」「仲間と連携すること」などの課題に気付き、次の学習に生かそうとする意識をもつようになった。

しかし、評価を通して得られた気付きが、次の練習やゲームでの具体的な行動に結び付かない生徒も見られた。例えば、振り返りでは課題を明確に書いているものの、次の練習では同じ動きを繰り返してしまう場面があった。こうした課題に対して、教師はゲーム後に映像や記録をもとに生徒の学習評価を共有する時間を設け、生徒が自他の動きや判断を振り返る機会を保障した。その中で生徒は、「パスを出した後に止まっていた」「空いている場所に動けていなかった」など、自身やチームの課題に気付くことはできていた。

しかしながら、その気付きをもとに、「次の練習では何を意識して動くのか」「どの練習でその課題を確かめるのか」といった具体的な行動や練習内容を、生徒自身が選択・決定するまでは十分に設定できていなかった。そのため、振り返りで生まれた気付きが、次の練習場面で共有・再確認されないまま進行してしまうこともあった。

学習評価を行動の改善へと確実につなげるためには、評価で明らかになった課題を練習の観点やチームの約束として位置付け直したり、「この課題を確かめるためにどの練習を行うか」を生徒に選択させたりするなど、評価と次に行うことを明確に結び付ける指導の工夫が必要である。

5 来年度に向けて

本実践を通して、生徒が振り返りや仲間との関わりを手がかりに、自らの課題に対し、メタ認知し、学びを調整していく姿が一定程度見られた。一方で、明らかになった課題を、次の練習方法へと生徒自身が具体的に結び付けていく過程については、改善の余地があることが明

らかとなった。

次年度に向けて、ゲーム後の振り返りやスライドの共有にとどまらず、「次の練習で何を確かめたいのか」

「どのような練習を行えばよいのか」を、生徒がチームや個人として選択・決定する場を位置付ける必要がある。例えば、振り返りで見えてきた課題を練習の観点として整理し、その中から重点的に取り組む内容を生徒自身が選択するなど、前時の学びと次時の学びとを往来させる学習構造をより明確にすることが求められる。

こうした改善を通して、単なる振り返りにとどまらず、次の行動を方向付けるより高次のメタ認知として機能する授業づくりを目指していきたい。

<引用・参考文献>

- (1) 吉永 武史「学習内容の転移を企図するボールゲームの教材配列」(大修館書店 2009)
- (2) 松本 真「ゴール型球技指導での『空間』について考える - 『空間』を指導する際の難しさ・誤解の要因を探る -」(埼玉大学紀要教育学部 2020)
- (3) 土井 秀和「ボール運動のゲーム学習の進め方『教師のための運動学;運動指導の実践理論』(1996)
- (4) 吉田 雄大「サッカーの状況把握に対する選手目線映像と空撮映像との比較」(日本体育・スポーツ・健康学会予稿集 (2021)
- (5) 小泉 岳央「中学校体育授業における俯瞰映像を用いたゴール型球技の一事例 - バasketボールに着目して -」(千葉大学教育学部紀要, 2023)
- (6) 鈴木直樹, 藤本拓矢ら「体育授業の一人一台端末活用アイデア 60」(明治図書 2022)
- (7) 奈須正裕, 伏木久始ら「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を目指して」(北大路書房 2023)

(授業者: 畑佐 知弘)